

神戸ウィークエンド花火撮影資料

2025年7月15日 香月清英

打ち上げ花火は、普通にスナップを撮るようなカメラの設定で撮ろうとしても、上手く撮れません。しかし花火撮影の基本的な設定をマスターすると、初心者でも簡単に幻想的な色彩の競演を、カメラに収めることができます。

基本的な設定としては

1・必ず三脚を使用すること

花火の写真は、上空で火薬が破裂し燃えながら飛び散っていく光跡を撮影するもので、スローシャッター（長秒露光）での撮影になるため、手ブレを起こさないように三脚を使います。

三脚は自分が使用しているカメラを支えるのに、十分な強度があるものを選び、脚を伸ばせば撮影者が立ったときの、顔の位置にカメラがくる位の高さになるものが理想です。

三脚は安定する場所を選んで、いっばいに脚を開いて使います。

2・露出モードはM（マニュアル）

オート、プログラム、シャッター優先、絞り優先などの撮影モードでは、思ったような写真は撮れません。M（マニュアル）モードに設定します。

3・ISO感度は100に

長秒露光での撮影になるため、ISO感度は100で十分に写ります。

4・絞りはF11で

花火の適正なF値は花火の種類によって異なりますが、F11を目安に撮影をすると、多くの花火を適正露出で撮影することができます。

撮影した写真をプレビューして、暗すぎるなり明るすぎると感じたら、絞りを開いたり閉じたりして、好きな露出になるように調整しますが、撮影に慣れるまではF値は11に固定しておき、シャッターを押すタイミングに集中することをお勧めします。

5・ホワイトバランスは太陽光にセット

花火の種類や色によってホワイトバランスは違ってきますが、いちいちホワイトバランスを変えるのは面倒なので、太陽光（晴天）にセットしておけば無難な色で表現できます。もし好みの色に写したければ、プレビューを見ながら変えてみるのもいいかも知れません。

6・シャッター速度はバルブ（BULB）に設定

バルブとは自分が好きなだけシャッターを開けておくことができる機能です。

花火の打ち上げ音がしたらレリーズを押してシャッターを開き、開花した花火が消えるまでシャッターを開いておくと花火の光跡が写ります。

連続的に花火が上がるときは、シャッターを開いた状態でしばらく置いておくことで、何発もの花火がひとつの写真に写ることになります。

BULBに設定するには、カメラの撮影モードをマニュアル（M）に設定し、シャッタースピードをどんどん長くしていくと、30秒の次にBULB表示になります。

最近のカメラにはモードダイヤルにBのポジションがある機種もあります。

7・レンズのオートフォーカスをマニュアルに設定してピントを固定する

花火と同じくらいの距離にある遠くの海面や堤防に、シャッターボタン半押しでピントを合わせ、そのあとレンズのAFとMFの切りかえスイッチでMFに切り替えれば、ピントは固定出来ます。

8・手ブレ補正機能をOFFに

ONのまま撮影すると、誤動作を起こして描写が甘くなり、光跡がくっきりと写らない可能性があります。

9・長時間露光のノイズ低減（キヤノン）、長秒時ノイズ低減（ニコン）、長秒時ノイズリダクション（ソニー）を「しない」か「OFF」に設定する。

一眼レフカメラには、1秒以上シャッターを開けて撮影すると、自動的にノイズを少なくする機能が付いています。これをノイズリダクション（ノイズ低減）機能といますが、花火撮影の場合はこの機能を必ずOFFにしておきます。

ONの状態では撮影すると、カメラは1枚撮影するたびにノイズリダクション処理をするため、数秒間から数十秒間シャッターが切れなくなってしまいます。したがって、ONにしておくとう花火がバンバン打ち上がっているのに、シャッターが切れなくて撮り損ねてしまいます。

10・リモコンレリーズを使い、ライブビュー（液晶モニター）を見ながら撮影する

カメラのシャッターを指で押すと、指の振動が伝わってブレの原因になります。そのためカメラに触れることなくシャッターを開閉できるリモコンレリーズを使います。

下から花火が上がったらレリーズを押してシャッターを開き、花火が開いて光が消えるまで押し続け、光が無くなったら手を離しシャッターを閉じます。基本的にはこの動作の繰り返しですが、長く押し続けてシャッターを開いておくと、何発もの花火が同じ画面に写ることになります。



11・レリーズが無い場合は

カメラに触らないでシャッターを切るために、2秒のセルフタイマーを使用し、ISO-100、絞りF-11、シャッタースピードを10~20秒に設定すれば、なんとか光跡をきれいに撮れると思います。シャッターボタンを押したら、カメラから手を離すことが大切です。

以上の基本的な設定を正しく行えば、必ず花火をきれいに撮影することができます。

あと、構図をどうするかとか、一枚の写真に何発の花火を入れるかとか、周囲を雰囲気はどう撮り込むかなどは、何枚も撮るうちに慣れてきますから、それから考えましょう。

下の写真は、いずれも2016年8月20日の猪名川花火大会で撮影したものです。参考にしてください。



F11 7秒 ISO-100 25mm

シャッターを7秒間開けていた間に3発の打ち上げ花火が開きました。



F11 11秒 ISO-100 18mm

11秒の間に3発開いたようですが、レンズをワイド側にして猪名川への光の映り込みを入れてみました。



F16 5秒 ISO-100 55mm

数発の花火をレンズを望遠側にして撮ることで、色とりどりの光跡が織り成す華麗な模様が撮れました。